

教 育 研 究 業 績 書

令和6年 4月 1日

氏 名 成 田 仁 美

研 究 分 野	研 究 内 容 の キー ワード	
生活科学 給食運営管理に関する実務 食に関する指導の実務	フードコーディネイト、災害食、学校給食の実務、食育の実務、	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例		
① 課題の提出と添削	平成31年4月 ～令和5年3月	食物栄養専攻必修科目「調理学実習Ⅰ」「調理学実習Ⅱ」では、調理の理論、理論に基づく献立についての調査学習を課し、理論と実践を結びつけられるよう促した。
② ミニテストの実施	令和2年4月 ～令和5年3月	食物栄養専攻の必修科目「調理学」「給食管理」の毎授業では、講義内容の理解度を確認するミニテストを行い、その解説をすることで知識の定着を図った。
③ Google クラスルームの活用	令和2年度4月～ 令和5年3月	事前にスライド資料を Google クラスルームに掲示し、予習復習、授業中の補助教材として役立てられるようにした。また、Google クラスルームのコメント欄を通じて適宜質疑応答することで、学習をサポートした。
④ アクティブラーニング	平成31年10月 ～令和5年3月 令和2年10月 ～令和4年3月	給食管理実習Ⅰでは給与栄養目標量の設定、献立作成（PC 入力含む）・衛生管理事項の確認を、給食管理実習Ⅱでは、発注・役割分担、ミーティング、大量調理、栄養媒体作成、食空間整備、帳簿作成、残食量調査、実施後ミーティングに至るまでを一連の流れとして課題意識をもちながら学べる授業構成とした。実習成果を客観的に評価する方法として、喫食者アンケートを Excel で集計する演習を取り入れた。 フードコーディネイト演習では、理論と実践が結びつくようにアクティブラーニングを取り入れた。
⑤ 生活課題に関わる課題解決のための思考力の育成	令和5年4月 ～令和5年9月	（家政学概論）衣・食・住に関する基礎的知識の習得や生活に関わる課題解決への思考力を身に付けられるようにすることに指導の重点をおき、毎時間、授業の内容をまとめた資料をグーグルクラスルームに掲示するとともに、必要に応じてホワイトボードへ板書をすることで、基礎的知識をわかりやすく教授した。また、想定できる課題を設定し、解決に導くための方法論を教授することによって、思考力をはたらかせることができるように工夫した。（生活文化論）生活文化に関する知識や和歌山地域の特性を「災害食」の観点から教授し、防災への意識向上を図るとともに、家庭や地域のために自分ができることを実践しようとする態度を養うことに重点をおいた。

成田 仁美

⑥ 演習科目 「フードコーディネイト」	令和5年4月 ～令和6年3月	食に関する「文化」「科学」「デザイン・アート」の基本をもとに、食のトータルコーディネーターとしての実践力が身に付けられるよう、提案内容を効果的にクライアントに伝えるためのプレゼンテーション力の育成に重点をおいた。グループワークや演習を取り入れながら、フードコーディネーター3級に求められる知識や技術を教授した。
⑦ 実習科目 調理学実習 I	令和5年10月 ～令和6年3月	基礎的な調理技術や食品の知識を習得し、「適量の食生活」を実践する力の育成に重点をおいた。4名ずつのグループワーク形式で自分の役割を把握し責任を果たせるようにするとともに、場合に応じて協力を促し、協調性を培えるように教授した。
2 作成した教科書、教材 特記事項なし		
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
① 学生による授業評価アンケート結果における評価	令和2年9月	和歌山信愛女子短期大学において実施されている授業評価アンケートにおいて、「調理学実習 I」の科目評価が5ポイント中4.8ポイントと高い評価を得ており、学生の満足度が高い結果となっている。 また、「調理学」「給食管理」の講義科目は、令和2年度の科目平均が令和元年度に比べて0.4ポイント高い結果となった。中でも教員の教え方についての満足度は0.7ポイント高い結果となった。
② 学生による授業評価アンケート結果における評価	令和3年3月	全学的に実施している授業評価アンケートでは、調理学実習 I・II、調理学、給食管理の科目は、授業計画・授業内容・教員の教え方、授業成果の全ての項目において、食物栄養平均・全学平均のいずれよりも高く、学生にとって満足度の高い結果となっている。
③ 学生による授業評価アンケートにおける評価	令和5年3月	担当しているどの科目においても、学習環境や学習意欲、教員の教え方について5ポイント中4.5ポイント以上の高評価を得ている。
④ 学生による授業評価アンケートによる評価	令和6年3月	(家政学概論) 質問項目の「学生の理解に合わせて授業が進められていた」「教科書、板書、配布資料、視覚教材、実演などは授業内容の理解に役立つ」の相関係数は0.907と、高い相関関係を示していた。また、「学生の質問に対して適切に対応していた」の相関係数についても0.815と、高い相関関係を示していた。 自由記述欄に記入した15名の学生のうち、暮らしに役立つ知識が身に付けられたと記述した学生が6名、生活に関わる思考力を育めたと記述した学生が3名いた。毎授業で、グーグルクラスルームに資料の掲示をするとともに必要に応じて板書をするこで、生活に関わる基礎知識の習得と思考力に関して、一定の成果が得られた。 (フードコーディネイト) 学生による授業評価アンケート(回答率100%)の結果、授業の計画に関する項目以外の授業の内容、教員の教え方、授業の成果に関する項目において、生活文化専攻の科目平均を大きく上回る高い評価を得た。自由記述欄に記述した学生は1名で、「フードコーディ

		<p>ネイトのことがよく分かった」と述べている。授業の内容、教員の教え方、授業の成果に関する評価が高かった理由として考えられるのは、少人数であったため、個々の学生の理解度に応じられたこと、対話型を取り入れる事で興味関心を引き出しながら教授したことが挙げられる。</p> <p>(調理実習 I) 学生による授業評価アンケート (回答率 57%) の結果、授業の計画、授業の内容、教員の教え方、授業の成果に関する全ての項目において、生活文化専攻の科目平均を上回り、ほとんどの項目において 5 点満点評価中 5 点を得た。自由記述欄に記入した学生は 2 名で、「必要なことが実践できた」「料理嫌いだったけど最後は上手になることができた」と述べている。少人数の実習であったので、きめ細やかな指導ができた。</p>
4 実務の経験を有する者についての特記事項 ① 特記事項なし		
5 その他 ① 和歌山県由良町 地域活動事業課題解決型事業活動プランコンテスト	令和 6 年 1 月	由良町の海産物を原料にしたサブりを設計・EC サイトで販売・ヘルスケア DX を運営し、ゆくゆくは首都圏や海外からのウェルネスツーリズムの誘致イベントを開催するというプランを発表し、最優秀賞を受賞した。
職務上の実績に関		
① 事項	年 月 日	概 要
	1 資格、免許	
① 栄養士	平成 12 年 3 月	第 5931 号
② 管理栄養士	平成 23 年 6 月	第 163366 号
③ 栄養教諭一種	平成 26 年 1 月	平 25 栄養一第 9 号
④ 中学校教諭一種免許状	平成 16 年 3 月	め平 15 中一種第 141 号
⑤ 高等学校教諭一種免許状	平成 16 年 3 月	め平 15 高一種第 189 号
⑥ フードコーディネーター 3 級	令和 5 年 2 月	第 086188 号
⑦ フードコーディネーター 2 級	令和 6 年 1 月	第 086188 号 (商品開発)
2 特許等 ① 特記事項なし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		

<p>① 食育の研究発表および公開授業</p>	<p>平成 16 年 10 月</p> <p>平成 27 年 11 月</p> <p>平成 30 年 8 月</p> <p>平成 30 年 11 月</p>	<p>岡山市の「研究授業方式による食に関する指導研究会」の研究指定を受け、小学校第 4 学年学級活動「牛乳のひみつ」の授業研究と公開授業を行った。この食育の取組実践事例は冊子にまとめられ、岡山市内の全小学校に資料として配布され、食育研究活動の普及に貢献した。</p> <p>岡山市の「研究授業方式による食に関する指導研究会」の研究指定を受け、小学校第 3 学年総合的な学習の時間「農業王国牧石」の授業研究と公開授業を行った。この食育の取組実践事例は冊子にまとめられ、岡山県内の全小学校に配布され、各校での食育研究活動の普及に貢献した。</p> <p>第 59 回全国栄養教諭学校栄養職員研究大会（参加者 1055 名）において、食に関する指導を系統的・継続的に行うための手立て、教科等における食に関する指導を充実させるための栄養教諭の関わり方、給食時間における食に関する指導を充実させるための栄養教諭の関わり方に関して、「食の大切さを知り、自ら実践しようとする子供の育成～授業・環境・連携の視点から～」と題し、研究論文の発表とプレゼンテーションを行った。</p> <p>第 55 回全国小学校家庭科教育研究会全国大会岡山大会において、第 6 学年家庭科「一食分の食事を考えよう」の授業研究と公開授業を行った。栄養教諭の立場から小学 3 年次より 4 年間を通して給食時間での指導を含め学級活動、生活科、道徳科、社会科、総合的な学習の時間、家庭科にわたり教科横断的・学年横断的に地域農業との関わりを深められるようにしながら食育に取り組んできた。育みたい知識及び技能を明確にすることで、指導の内容や順序を整理し、児童の思考を丁寧に予想して学習計画を立てた。全国から集まった 500 人余りの小学校教員の前で、食育 S A T システム、タブレット端末と電子黒板等の I C T を用いた公開授業では、グループワークに取り組む中で、栄養バランス、いろいろ、味、地域の事を考えて 1 食分の献立を立て、自信をもってグループが発表できるようにした。活発なグループワークの中で、問題解決的な学習の展開ができた。</p>
<p>②大量調理における衛生管理の研究</p> <p>③給食管理、調理指導、給食会計管理、栄養管理に従事</p> <p>④岡山市基本献立委員として、献立作成、物資選定・開発に従事</p> <p>⑤岡山市学校栄養士研究会として調査研究を行った。</p> <p>⑥児童家庭科クラブの指導</p> <p>⑦給食委員会の指導</p>	<p>平成 16 年度より平成 31 年 3 月年 1 回実施</p> <p>平成 16 年 4 月～平成 31 年 3 月</p> <p>平成 28 年 4 月～平成 31 年 3 月</p> <p>平成 16 年～平成 31 年 3 月</p> <p>平成 27 年 4 月～平成 31 年 3 月</p> <p>平成 16 年 4 月～</p>	<p>A T P ふきとり検査を活用した二次汚染防止の考察（近隣校の栄養教諭・学校栄養職員との共同研究）を行い、客観的数値を用いて調理員への衛生指導を行った。</p> <p>小・中規模直営単独校方式調理場、民間委託方式学校給食センターでの衛生管理及び栄養管理</p> <p>岡山市の栄養教諭・学校栄養職員を代表し、基本献立を考案する委員として、献立作成、物資選定、特注物資開発に従事した。</p> <p>岡山市立学校全児童生徒を対象とした朝食及び生活習慣の調査研究（5 年ごと実施・集計）とデータを活用した指導資料の作成に従事した。</p> <p>小学校の家庭科クラブの指導を担当した。フラワーアレンジメント、茶道、裁縫、クッキングの指導を行った。</p> <p>小・中学校において、給食委員会の指導を担当した。嗜好調査、残食量調査、全校集会、給食時間の放送な</p>

	平成 31 年 3 月	どの指導を行った。
4 その他		
① 学校における食育についての 情報発信	平成 27 年 6 月	岡山市教育委員会と地元プロサッカーチーム「フ ァジアーノ岡山」の共同企画による選手の学校訪 問事業において、給食時間の企画・運営の代表と して携わった。交流給食、自校給食紹介（地元野 菜）、プロサッカー選手への食事のインタビュー など、魅力ある内容を実施した。地元テレビ、新 聞で紹介され、その後岡山市全校にこの交流事業 が広まり、継続している。
	平成 29 年 11 月	地域人材の協力を得ながら地域野菜を有効に活用 して、学校教育体で食育に取り組む牧石小学校の 実践や教育方針について、インタビューを受けた 記事が J A 岡山のコミュニティ雑誌（岡山・玉野 市に 19 万 9 千部発行）に掲載された。地域住民 へ情報発信する際に中心的役割を務めた。これ は、J A 岡山広報誌「ばれっと」を通じて、牧石 小学校での食育の取組を地域住民に向け情報発信 を続けてきたことで、地域住民の食育への関心が 高まってきたこと、学校給食へのより一層の理解 を深め、地域住民とともに食育を推進することを ねらいとしていた。
② 栄養士実習生への指導	平成 17 年～平成 31 年	県内の栄養士養成大学・短期大学の臨地実習の指 導を行った。指導のカリキュラムとしては、学校 給食衛生管理基準に沿った衛生管理、給食の食材 を活用した食に関する指導について、実習を通し て学べるようにした。
③ 学校保健委員会・給食運営委員会の 講師	平成 16 年～平成 31 年	児童生徒が望ましい食生活習慣を身につけるため に必要な家庭の協力について、保護者を対象 とした講話を行った。食育 S A T システムやヘモ グロビン量測定器、体組成計などを用い、客観的 指標をもとに食事・生活指導を行った。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1 特記事項なし 2 3				
(学術論文) 1 特記事項なし 2 3				
(その他) 「学習指導案集」 1 第55回全国小学校家庭科教育研究会全国大会岡山大会・第17回中国四国小学校家庭科教育研究大会岡山大会・平成30年度岡山県小学校家庭科教育研究発表会学習指導案「よりよい生活を願い、考え、実践する子供をめざして」 2 3 「研究大会発表」 1 第59回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会 広島 2 3	共著 — — 単著	平成30年11月30日 平成30年8月2日・3日	全国小学校家庭科教育研究会・中国四国小学校家庭科教育研究大会・岡山県小学校家庭科教育研究会 第59回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会実行委員会	学習指導案集「よりよい生活を願い、考え、実践する子供をめざして」のうち、第6学年家庭科学習指導案(49頁～57頁)を共同で担当した。 第59回全国栄養教諭学校栄養職員研究大会(参加者1055名)で配布した研究大会冊子の37頁から41頁を執筆した。